

図書 紹介

工学部ヒラノ教授

著者:今野 浩 (中央大学)

発行: (株)新潮社 / 〒162-8711 東京都新宿区矢来町 71 / Tel. 03-3266-5411 /

四六判 / 204 頁 / 価格 1500 円 (税別) / 2011 年 1 月 25 日

本著のヒラノ教授、本名今野 浩氏が東大工学部応用物理学科を卒業後、筑波大、東工大、中央大の工学部で 40 年間に経験した楽しくも辛い研究と教育と雑用について綴ったノンフィクションである。タイトルは 1990 年代はじめ、文学部教授の生態を曝してベストセラーとなった筒井康隆の小説『文学部唯野教授』(岩波現代文庫)に捧げて付けられている。

1. シーラカンス
2. 一般教育担当・二級助教授
3. 大学スゴロク
4. 文系スター教授
5. 大学設置基準の大綱化
6. 研究費獲得競争
7. 論文書きのノウハウ
8. 専門教育担当・一級教授
9. 工学部の教え 7ヶ条
10. 講義という名の決闘
11. 後世恐るべし
12. 大学院重点化
13. ヒラノ教授、部局長となる
14. 独立法人化を逃げ切った男
15. 大学運営 (雑務) と社会的貢献
16. 工学部平教授ほど素敵な商売はなかった

その一部紹介すると、序章の「シーラカンス」では、例えば 60 歳代手前は「シーラカンス」、そのさらに上の教授たちは(C の前が B だから)「ビーラカンス」といった駄洒落で批判が繰り返される。「文系スター教授」では、文系一匹狼たちは、①大学に対して忠誠心を抱いていない、大学や学生のことより自分のことが大切、②彼らは必ずしも本音を

述べているとは限らない、相手を論破するためには詭弁を弄することも厭わない、③議論はその場で首尾一貫していればいいと思っており、1ヶ月後に180度違うことを言っても状況が変わったと言えればそれで済む、④彼らは数学ができる人に対して劣等感(あるいは嫌悪感)を抱いているなどの記述は興味深かった。「論文の書き方のノウハウ」では、多くの読者が目を通すジャーナルの論文は引用される回数が多いので、インパクト・ファクターも大きく、「ネイチャー」は27も、ヒラノ教授の専門である金融工学等の分野では最もグレードの高いジャーナルでも3.5程度だという。翻って当学会のBiocontrol Scienceは、1点にも満たない現状は、引用回数が依然として上がらないことを意味している。諸先生方の奮起を期待して止まないところである。「工学部の教え7ヶ条」では、工学部の七つの教えが上げられている。これだけ守っていればエンジニアとして大過なく勤め上げることができるというが、まさに一般社会でも同様である。

第1条 決められた時間に遅れないこと(納期を守ること)

第2条 一流の専門家になって、仲間たちの信頼を勝ち取るべく努力すること

第3条 専門外のことには、軽々に口出ししないこと

第4条 仲間から頼まれたことは、(特別な理由がない限り)断らないこと

第5条 他人の話は最後まで聞くこと

第6条 学生や仲間をけなさないこと

第7条 拙速を旨とすべきこと

終章の「工学部平教授ほど素敵な商売はなかった」では、優秀な研究者の集まりである東工大にも、何らかの事情で「怠け蟻」が発生することがあるが、彼らは仲間の激励によってまた立ち上がるという。米国では、若い時から勝って勝って勝ちまくる強者でなければ、理系研究者として生き残れないが、日本では、大器晩成や敗者復活が可能であり、前述の7ヶ条のひとつ「学生や仲間をけなさないこと」も二流でも(頑張れば)やっつけられるひとつであろうが、短期的な成果を求める風潮が加速すれば、日本もアメリカの垂流になり下がるだろうと著者は憂慮している。

ほかに学内勢力の微妙な相関、研究費の争奪、文部(科学)省所管研究費の内幕、大学内勢力争いから学生の出欠確認、試験の方法や単位認定等まであからさまに書かれており、工学部の不思議な内情を知ることが出来る一冊である(学会事務局)。